

スミイタートツニ



第十一卷

十二月號

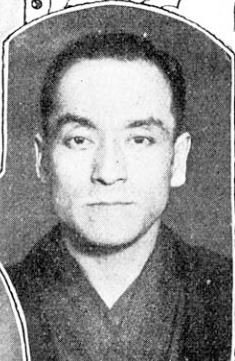
クツピラブートツ



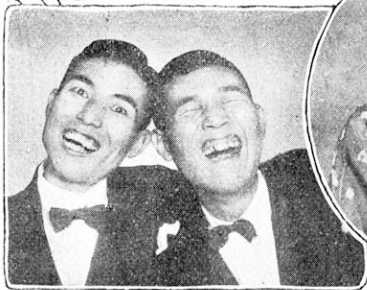
んき子和浦松



んき昔の園樂謠童谷ヶ佐阿



師夫太部南本竹



んき助羽出亭世浮とんき春一家内河



んき部式井雲

<p>福岡市中島町四六番地</p> <p>日東蓄音器九州營業所</p> <p>電話一 一 二八番</p>	<p>東京市京橋區銀座一丁目四ノ五番地</p> <p>日東蓄音器東京營業所</p> <p>電話京橋(66) 五七番 三〇六一番</p>	<p>名古屋市中區上前津交叉點西入</p> <p>日東蓄音器名古屋出張所</p> <p>電話南(6) 五二八五番</p>	<p>大阪市南區長堀橋第一丁目二番地</p> <p>日東蓄音器大阪營業所</p> <p>電話南(76) 五四八〇番 五一一一番</p>	<p>大阪市住吉區住吉神社南門前</p> <p>日東蓄音器株式會社</p> <p>電話戎(76) 一〇五〇番 一三一七番 住吉 一三一七番</p>
---	--	---	--	--



ドーコレートツニ

4031	赤新	重わ	し	ねが	思	扇ひ	母 二味 澤 芝 金
4138	赤新	松	葉	ゆ	か	た	母 二味 澤 芝 金
4146	赤新	忍上	ぶ	戀下	か	た	母 二味 澤 芝 金
4201	赤新	月夕	夜	が	ら	す	母 二味 澤 芝 金
4246	黒新	森	坂	コレ	どう	ぞ	
5025	黒新	酒	屋	今	前	の	
5044	黒新	太	功	露	今	前	
5045	黒新	十	段	誠	あ	ら	
5143	黒新	鳴	戸	な	これ	ま	
5201	黒新	朝	顔	夫	を	切	
5216	黒新	紙	油	お	さん	は	
5239	黒新	本	二十四	コ	レ	な	
5240	黒新	二	十	恨	み	な	
5293	黒新	先	代	道	れ	こ	
5294	黒新	先	代	道	れ	こ	
5344	黒新	柳	東	道	れ	こ	
5345	黒新	柳	東	道	れ	こ	
5390	黒新	新	口	孫	右	衛	
5391	黒新	新	口	孫	右	衛	
3994	黒新	酒	屋	今	頃	は	
4096	黒新	森	坂	秋	を	渡	
							豊竹昇之助
							竹本南部太夫
3873	黒新	玉	三	委	細	の	
4037	黒新	堀	川	脱	か	し	
4038	黒新	堀	川	脱	か	し	
3625	黒新	朝	顔	夫	を	切	
3820	黒新	森	坂	秋	を	渡	
3636	黒新	海	御	晏	所	寺	
3672	黒新	萩	萩	萩	萩	萩	
3745	黒新	青	館	山	柳	節	
3768	黒新	春	梅	雨	春	柳	
3746	黒新	愚	わ	し	が	國	
3833	黒新	愚	わ	し	が	國	
3900	黒新	大	津	手	榮	榮	
3918	黒新	縁	浅	錯	繪	榮	
4006	黒新	伊	米	山	句	節	
4157	黒新	秋	の	夜	・	尊	
4192	黒新	二	博	上	り	多	
4097	黒新	波	紀	し	伊	の	
							竹本雄玉昇
							三 榮

義太夫

端唄・小唄・民謡・俚謡

新譜の御紹介



流された光源氏の君の
淋しい心境をうたつた

三曲合奏

磯千鳥

吹込み者は

三絃 富久春和

琴 殿井政彌

尺八 池田篁童

三曲合奏「磯千鳥」の一枚
もの——これはおなじみの富
久春和さんが、殿井政彌さん
の琴、池田篁童さんの尺八に
よつて吹込んだところの力作
品で、好評をたまたはつた既發
賣の「秋の曲」と同様の見事
さを示してをりますから、何
卒あいはらずの御愛聴をせつ
に願つて置きます。なほこの
曲は、光源氏の君が須磨の浦
へ流されたとき、磯邊に群れ

とぶ千鳥の啼く音を聴いて、
過ぎ越しかたの華やかな生活
を、しみじみ追懐するかないふ
ことを叙したもので、古歌の
「世のなかは何に譬へん飛鳥
川、きのふの淵がけふの淵と
なる」を取り入れ、長い手事で
全曲を活かしてあります。作詞
は橋岐山、作曲は三絃を菊岡
檢校、琴を八重崎檢校が苦心
した古曲でございます。

(レコード番号野五三〇三五)

竹本座最後の座付作者たりし近松半二の

その百五十年忌を記念しての名義大夫

新版歌祭文 二枚

——野崎村の段——

吹込み者は 竹本南部 大夫

三味線は 野澤 吉彌

ツレは 野澤 八造

義大夫「新版歌祭文」野崎
村の段の二枚つゞき——これ
はいま人氣の焦點となつてゐ
る文楽座中堅の竹本南部大夫
師が、竹本座最後の座付作者
として名をうたはれた近松半
二の、その突るべき百五十年
忌を記念するために、全努力
を傾注して吹込んだところの
作品で、おなじみの「久作も

その歌詞

うたふねの枕に響く曉の鐘
實に儘ならぬ世のなかを、何
にたとへん飛鳥川、昨日の淵
は今日の淵と、かはりやすき
を變ること、契りし事もいつ
しかに、身は浮き船の楫を絶
え、今は寄る邊も白波や、棹
の掣か涙の雨か、濡にぞぬれ
しぬれ衣、身にしむ今朝の浦
風を、詠びつゞや鳴く磯千鳥。

もてあつかひ——から段せれま
でを、野澤吉彌師の三味線、
野澤八造師のツレによつて納
めてございますから、何卒ぜ
ひとも御愛聴をひたすら願
つて置きます。なほこの浄瑠
璃のあらすじは——相良丈夫
は主家の鬘刀紛失で家は改易
一子を百姓久作に預ける。こ
れが後に久松となる。大阪元
町の油屋へ久松は奉公し、親
のお染と戀になる。お染は山
家屋へ嫁入りの話ができる。
久松は座摩明神で金を盗まれ
る。そこで久松は久作の家へ
歸される。久作の娘お光は久
松と許嫁の仲、いよく、祝言
といふ日にお染がきて、この
野崎村の段になり、やがて久
松は再び主家に歸つたが、藏
へ押しこめられ、お染は土蔵
の外に、二人は顔を見ながら
心中するといふので「奥州安
達ヶ原」「關取千雨幟」など、
ともに、近松半二の傑れた合
作物のひとつになつてござい
ます。

(レコード番号野五三〇三二)



嘘！中村大尉でアテタ
藤波笑聲さん吹込みの

流行歌ふたつ

矢つきはやに今月發賣

あきらめ節

不景氣々々と泣き言云ふな
大和魂のかたまりだ
腹はへつてふらくくしても
武士は食はねど高楊子

アーあきらめろ

新おけさ

一日二日は我慢もしやうが
十日も廿日もお亭では
腹は張るけど足しにならぬ
せめて喰べたい米の飯

アーあきらめろ

景氣が悪いから家賃下げろ
汽車も電車も値下げしろ
ついでにお米はたいにしろ
そのうち月給も下がらる

アーあきらめろ

今は不景氣で困つてゐても

もはや金解禁もしたそうな
少しは景氣も出るだらう
出なげや不景氣が續くだろ
アーあきらめろ

以下一節略

荒い 荒い 荒い 浪さへ
やさしとうけてよ
心うごかぬ佐渡ヶ島

度胸 度胸 度胸 定めて
乗り出すからはよ

後へかへさぬ帆かけ船

霞々 霞かけたる

絵のよな佐渡をよ
唄にしてゆく帆かけ舟

以下一節略

(レコード並録盤五十四二)



投 稿 歡 迎

▼「ルンペン天国」はさすが
日東蕃が本格的レコードで
ラマと名をつたえに聴きど
たえする作品だつた。ことに

小織桂一郎さんのルンペン源
公はいゝ演出ぶり、思はず泣
かされた(神戸 下川生)

▼この頃日東蕃がぞくぞく發
賣する吹奏樂のその良さに手
をうつてゐるひとりで。一
枚一圓の純國産レコードで、
あゝした良い吹奏樂が聴け得
るといふこの喜びは豈私ひと
りぢやありませんまい。せつか
くの努力を乞ふ(音楽狂投)

▼芳村伊四郎さんの「新曲浦
島」は素朴ですな。次にあの
伊四郎師によつてわれ等の長
き期待であるところの「石橋」
を出して下さいませんか。切
望します(京都 大野生)

▼私ども片田會に住むものに
とつて唯一のたのしみは良い
浪花節レコードを聴くことで
す。で、あり餘つた金の少い
私どもはこの場合、同じ立派
な吹込みによるしかも廉價な
ニッソーレコードに感謝して
をります。ことに數ある富士
月子師の「天野屋利兵衛」な
どはニッソーのが一番結構で
したよ(京都 磯部玄一)

昭和六年十一月十二日印刷
昭和六年十二月一日發行

(毎月一回發行)

妻ヶ年分前納郵税共九拾錢

大阪市住吉區駒川町四ノ

二〇

發行兼編輯 田 内 實

印刷人 田 内 實

大阪市天王寺區南日東町

二九

印刷所 日東印刷所

大阪市住吉區上住吉町

發行所

日東タイムス社

電話或一〇五〇番



特約販賣店



(右)氏即太延杉井と(左)尉大村中の發出司公免札の站特克勒依嶺安興

果然！人心を刺戟せる

時事小唄

噫 中村大尉

滿蒙節

伊藤松雄作歌
永井巴作曲

伊藤松雄作歌
草笛道朗作曲

ニッポレコード
番號 五四二五